

● 巻頭言 ● JABEEへの熱気と温度差

九州工学教育協会副会長（佐世保高専） 根本 實

わが国の高等教育への風当たりが強い。独立行政法人化は今年の秋におよその方向性が決まるといわれているし、さらに追い打ちをかけるように大学の一部民営化も提言されている。経済不振の責任を大学教育にかぶせようとしているように思われなくもないが、バブルの崩壊による国の財政破綻と、東西ベルリンの壁の崩壊に始まるグローバル化の大波が大学にも襲ってきているとみるべきであろう。

すでに良く知られているように、スイスのローザンヌに本拠を置く国際経済開発研究所（略称：IMD）の国際競争力に関する報告(2000)によれば、わが国の国際競争力は調査対象とされている47カ国中、総合ランキング17位で、1996年の総合4位から急落している。項目別では、科学技術競争力が依然として米国に次いで2位という高い評価を与えられているのに対して、大学教育に関しては最下位の47位という惨めな結果となっている。最近、大学への風当たりが特に強くなったのはこの調査結果の影響かも知れない。

日本工学教育協会主催によるJABEE（日本技術者教育認定機構）に関する発表講演会が5月22日に新宿の工学院大学で開催されたが、定員300名の予定を大幅に超過し、補助椅子を入れるほどの盛会で、最新設備の空調の能力が足りないと感じたのは今回が初めてと世話人が驚くほどの熱気であった。少子化がすすみ、志願倍率の低下や入学生の学力水準の多様化どころではなく、定員割れを起こす大学が頻発し、大学が学生を選別する時代から、学生が大学を選択する時代になった。また、大学自体、教育を主とする大学と研究重点大学に分化すべきとする意見も強く、それが大学の個性化ともみられている。JABEEは、従来わが国では省みられなかった教育評価の始まりであり、講演会では、教育評価に生き残りをかけようとする大学、高専の熱気を感じた。一方、研究重点大学と自認している大学からの参加は少なく、大きな温度差がある。しかし、平成15年に開始されるといわれる大学評価では、研究実績と共により高度な教育が要求されるようになるであろう。梶田穎一（有斐閣選書2000）の言う「旧例にしたがって、のんびりと優雅に、高いプライドを持ちつつ、基本的にマイペースで毎日の仕事に取り組める時代」は大学でも高専でもとうの昔に終わっていると思っていたのだが……

● ご挨拶 ● 九工教の常務理事を終えて

前九工教常務理事（九州大学大学院工学研究院） 中武 一明

前任者であった、九大工学部電気工学科の谷口研二先生から、平成9年3月九工教の常務理事を受継いで早くも4年間に過ぎて任期が終り、九大工学部機械工学科の井上雅弘教授にバトンタッチしてホッとしているところである。本稿では、過去4年間に何をしたかのメモを残しておきたいと思う。

・ 最初に取り組んだのが、谷口先生から案として頂いた「入会案内」であった。一人だけでは出来ないの、常任委員会に下部組織として、「運営委員会」を設けて検討してもらいながら、文章だけの「九州工学教育協会入会案内」を作成した。日工教の色刷りの入会案内と比べると貧弱なものであるが、最低の役目を果すものとして、コンピュータで作成したものである。

・ 最大の行事が、平成10年7月29日～31日に、福岡リーセントホテルにおいて、九工教がホスト役となって開催した「第46回日本工学教育協会年次大会」であった。1年前から運営委員会で議論しな

平成13年5月7日(月) 11:00~13:00 平成13年度第1回常任理事会 (18名中12名出席)
・平成12年度決算報告, 平成13年度役員, 平成13年度事業計画(案), 平成13年度予算(案)
等について検討

平成13年7月23日(月) 11:00~13:00 平成13年度第1回理事会の予定

(於(株)大島造船所会議室)

報告

第3回九州工学教育協会賞

平成13年2月5日, 九工教の総会終了後, 第3回九州工学教育協会賞の授与式が行われた。
2件の受賞題目, 氏名, 受賞理由は次のとおりである。

(1) 「Java言語教育への先駆的貢献」

中山 茂 (鹿児島大学工学部 教授)

(受賞理由) 情報通信分野におけるJava言語の重要性と将来性に着目し, 日本で最初の「Hot Java入門」を出版し, この分野における利用者に工学教育上多大の貢献をしている。

(2) 「実践的メカトロニクス技術者育成を目指した教育プログラムの開発と実施」

寺井 久宣 (北九州工業高等専門学校 助教授)

山内 幸治 (北九州工業高等専門学校 助教授)

安信 強 (北九州工業高等専門学校 助教授)

田上 宗男 (北九州工業高等専門学校 助手)

乙部 由美子 (北九州工業高等専門学校 助手)

(受賞理由) 制御工学科において, 新しい技術教育について議論を重ね, 実践的メカトロニクス技術者育成を目指した教育プログラムを開発して実施している。

第4回目の募集を10月にいたしますので, 奮ってご応募ください。

報告

平成12年度九州地区国立高等専門学校教育研究集会

大分工業高等専門学校長 沖 憲典
教務主事 阿部 信男

1) 実施要領

主催 国立高等専門学校協会

共催 ・九州工業教育協会高専部会, 九州地区国立高等専門学校校長会

テーマ 「高専における国語教育について」

期日 平成12年12月7日(木)~8日(金)

会場 大分ワシントンホテルプラザ(大分市)

参加校 九州地区9高専

特別講演 「工学部学生への『技術文章・プレゼン教育』—岡山大学での5年間の事例と教育効果—」

岡山大学工学部機械工学科助教授 塚本 真也

事例報告 「専門教育におけるNIEの実践報告」 大分高専教授 亀野 辰三

「表現力を高めるための漢字・語句の指導」 大分高専助教授 相本 正吾

「自主教材『ふるさとの文学』を使ってのささやかな試み」

大分高専助教授 山田 繁伸

協議題 文章表現力を高める指導方法について

工業高専における学生の技術文章の指導状況について

高専における国語教育の位置づけとその意義について

5. Gilbert Paquette 博士 (Director, Tele-Universite du Quebec)
講演題目: Impelementing a University Virtual Learning Center

国際会議参加申込受付: ITHET2001ホームページ上で, クレジットカード, 銀行, 郵便局いずれでも受付けています.

連絡先 秋山秀典 (本国際会議実行委員長)
熊本大学大学院自然科学研究科 (〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1)
電話 096-342-3618 ファックス 096-342-3630
E-mail akiyama@eecs.kumamoto-u.ac.jp

ご参加を!!

施設見学会「大島造船所」 長崎県西彼杵郡大島町1650-1

日時: 平成13年7月23日 9時~17時30分
集合場所: 九州大学記念講堂前 (9時 貸切りバス出発)
参加人員: 定員40名 (申込み先着順)
申込み締切り: 7月9日
申込み先: 九州工学教育協会事務局 (Tel:092-642-3244)

ご参加を!!

日本工学教育協会 第49回年次大会

日時: 平成13年7月17日~19日
場所: 東北大学工学部・工学研究科
担当: 東北工学教育協会
申込み締切り: 6月22日
申込み先: 東北大学工学部・工学研究科総務課内
日工教年次大会実行委員会 (Tel:022-217-5804)
詳細は「工学教育」vol. 49, no. 3, 2001年5月号をご覧ください.

あとがき 今年度から, 常務理事を務めさせていただくことになりました. 中武先生が始められました九工教ニュースを引きつづき発行して行きたいと思ひます. 非才なりに全力を尽くしたいと思ひますので, 中武先生のときに変わらぬ, ご支援とご助力をよろしくお願い申し上げます.

根本先生の巻頭言にありますように, 「国際競争力が最低である」との評価を受けた日本の高等教育をどのように立て直すかが, 私ども工学教育関係者の使命だと思ひます. 日本工学教育協会および九工教はこの問題をみんなで取り組む最適の場です. 多くの方々に入会をお勧めし協会活動の活性化ができれば, 現在問題になっている個人の教育活動の客観的評価の場としても工学教育協会を活用できるのではないのでしょうか. 皆様のご協力を切にお願い申し上げます. (文責 常務理事 井上雅弘)

Tel: 092-642-3462, Fax: 092-642-7032, E-mail: ino@mech.kyushu-u.ac.jp

九工教ニュースへのご投稿をお願い致します. 内容は工学教育, 企業内教育などに関するもので, 皆様にお知らせしたいことならなんでも結構です. 手書き文書, FAX, E-mail のいずれにても受け付けます. ただし, 0.5~1頁程度におまとめ下さい.